

第2期産業振興計画高幡地域アクションプランの取り組みの総括

取組の成果と今後の方向性

◎総評
高幡地域では、地域の大部分を占める森林資源を活かした林業分野をはじめ、農林水産業、6次産業化への取り組みなど、48の地域アクションプランの推進に取り組んできた。津野町のアンテナショップ「満天の星」は、外商ビジネスの拠点を高知市に設け、町内の野菜やお茶、「満天の星大福」(ほうじ茶大福)をはじめとするスイーツなど好調な販売を続けており、多くの雇用の創出につながっている。
また、四万十町のクラインガルテン(滞在型市民農園)は、開設以来高い稼働率を継続しており、町内への移住者の増加にもつながっている。
観光分野では、平成28年4月から開幕される「2016奥四万十博」に向けて、5市町による奥四万十博推進協議会を中心に、各市町における観光客の受入体制の整備や体験プログラムの充実に取り組んできた。
その他、四万十の栗や葉にんにくといった地域の素材を活用した加工品づくりなどは、大きく売上を伸ばしてきている。

※地域アクションプランによる雇用の創出 第2期(H24~H27) 58人
うち産業振興推進総合支援事業費補助金関連 53人

◎各分野の取組の成果と今後の方向性
・農業分野
まとまりのある産地づくりに向けた学び教えあう場の設定など栽培技術の向上により収量及び品質が向上した。中でも、本県が全国トップの生産量を誇るミョウガは、高幡地域での販売額が県内の約8割を占めている。今後も、栽培マニュアルの作成による栽培基本技術の定着化、学び教えあう場の設定による栽培技術の向上を目指す。

・林業分野
「四万十ヒノキ」の認知度も徐々に向上してきた。今後も四万十地域の森林資源の利用促進を図るため、「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源のブランド化、販売促進に取り組む。また、津野山地域においては、循環型社会の構築を目指し、引き続き木質バイオマスの有効利用に積極的に取り組む。

・水産業分野
処理能力と衛生管理を強化した水産物加工場が須崎市(カンパチ、マダイ等)、中土佐町(カツオ、メジカ等)に整備され、高鮮度なブランド魚の加工・販売体制が整った。今後は、県外を中心に販路拡大に努め、他産地の販売戦略に左右されにくい販売力を構築していく。

・観光分野
海洋堂ホビー館四万十は、企画展やイベントを定期的開催するなど、リピーターを含めた来館者の確保に向けた工夫を重ねており、長期雇用にもつながっている。平成27年4月に打井川バイパスが開通し、大型観光バスの乗り入れが可能となったことから、観光客の受入増につながっている。
また、「2016奥四万十博」の開催を契機として、旅行会社へのセールスや体験メニューの磨き上げ、新たな体験プログラムの造成などをさらに進め、観光交流人口の拡大等を目指す。

主要な指標及び目標

項目	出発点 (2期計画策定)	目標 (H27)	実績 (H27)
主要農産物(ミョウガ)の販売額(JA土佐くろしお)	H23: 52.9億円	H27: 60億円	H27: 59.7億円
主要農産物(ニラ)の販売額(JA四万十)	H23: 8億円	H27: 10億円	H27: 9億円
四万十ヒノキブランドの製品販売高	H22: -	H27: 原木9,000m ³ 製品2.7億円	H27: 原木7,333m ³ 製品2.4億円
シイラの取扱量	H22: 26t	H27: 85t	H27: 65t
主要施設の宿泊者数(管内主要9施設)	H24: 39,163人	H27: 40,000人	H27: 36,243人
ビジネス拠点組織の直販所等販売額(津野町・四万十町)	H22: 427百万円	H27: 582百万円	H27: 454百万円

主な支援策の活用状況(H24~H27)

- 産業振興推進総合支援事業費補助金 19事業 313,131千円
- 観光拠点等整備事業費補助金等 21事業 172,603千円
- 専門家の派遣(産業振興アドバイザー事業) 25件、延べ65回

●津野町地産地消・外商販売戦略【津野町】
＜ふるさとセンター、津野町＞

津野町アンテナショップ「満天の星」

取組の内容
・高知市内アンテナショップのオープン(H24.4月)
・新茶まつりなどイベント開催
・新商品の開発

今後の方向性
・特産品(つの茶、津野山牛)の認知度向上
・定期的なイベント開催

主な成果

・「満天の星大福」が高知県地場産業大賞産業振興計画賞受賞(H24)
・雇用の創出 40人(うち長期40人)
・(株)満天の星 販売額 0円(H22)→208百万円(H27)
・津野町ふるさとセンター販売額 136百万円(H22)→154百万円(H27)



●四万十の栗再生プロジェクト【四万十町】
＜四万十の栗再生プロジェクト推進協議会＞

四万十の栗

取組の内容
・おちゃくりカフェオープン(H26.4月)
・栗生産力向上のための技術指導の強化
・マスコミ等への露出と外商活動

今後の方向性
・生産者部会の組織強化
・新商品の開発と販売促進

主な成果

おちゃくりカフェ実績
・加工品売上高 33,320千円(H26) →68,860千円(H27)
・来店者数 10,897人(H26) →18,759人(H27)



●「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進【梶原町、津野町】

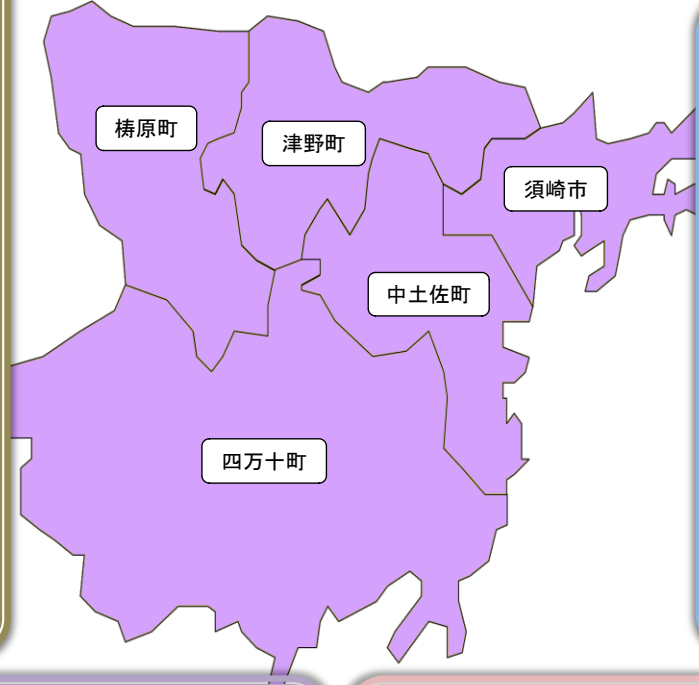
原木シイタケ

取組の内容
・共同ほだ場の整備(H23)による生産体制の強化
・生産者組織(億産会)の設立と販売促進活動

今後の方向性
・乾燥シイタケを使った料理の提案による販路拡大
・加工品の開発

主な成果

・乾燥シイタケの販売量 2.2t(H22)→3.9t(H27)



●葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大【須崎市】

葉にんにくのたれ

取組の内容
・製造設備の整備(H25)
・県内外での展示商談会等への出展
・マスコミ、雑誌を活用した情報発信

今後の方向性
・常温で販売できる商品の開発
・取引先の開拓

主な成果

・販売額 0円(H24) →19,203千円(H27)
・雇用の創出 6人(うち長期3人、短期3人)
・高知県地場産業大賞奨励賞 受賞(H26)



●中土佐町地域ブランドの創出と販売促進【中土佐町】

ぴんぴ (スラリーアイス活用)

取組の内容
・「ぴんぴ鯉」及び第2ブランド「上々」の販促活動(百貨店や各県人会等)
・水産加工施設の整備(H26)

今後の方向性
・商談会への参加等を通じた販路拡大
・新商品の開発

主な成果

・「上々鯉たたきセット」の取扱業者数 2業者(H26) →11業者(H27)
・三越特招会、グルメ通販等での取扱 1,986千円(H26) →3,749千円(H27)



●滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり【四万十町】

クラインガルテン

取組の内容
・施設内、町内イベント等での住民との交流促進
・移住相談窓口やお試し滞在施設の運営

今後の方向性
・移住定住促進の仕組みづくり
・相談窓口体制と移住サポーターの活動の充実

主な成果

・施設稼働率 94.7%(H27)
・移住相談窓口への相談件数 134件(H25)→701件(H27)
・移住実績 9組18人(H24) →26組45人(H27) (H24~H27累計69組127人)



●わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり【四万十町】

海洋堂ホビー館

取組の内容
・展示スペースの拡張整備(H24)
・県内外の小中学生に招待券配布
・大型観光バスの乗り入れのため、打井川バイパスを整備(H27)

今後の方向性
・ホビー館を拠点とした滞在型観光の仕組みづくり
・団体客誘致のための営業活動

主な成果

・ホビー館来館者数(累計) 307,662人(H23.7月~H28.3月)
・地元住民が運営する「谷小屋」「かっぱ茶屋」等の活動の活性化



高幡地域アクションプランで設定した
数値目標等に対する評価



重点的な対応が必要と思われるものについては、市町村や関係団体等との密接な連携のもと、課題の克服やさらなる成果の拡大に取り組む。

(主なもの)

項目	見つかった課題・方向性	今後の展開
つの茶販売戦略	茶販売額の増加を目標に掲げ、新たな茶加工品の開発等に取り組んできたが、生産者の高齢化や担い手不足、茶単価の低迷等により、販売額は減少(H24:57,774千円→H27:35,046千円)。「つの茶」を基幹産業として再生するためには、生産から加工、流通、販売までの戦略的な取り組みが必要	◎荒茶の販売額を増やすため戦略的な取り組みを進める。 ・JA津野山の仕上げ茶・加工品開発などによる茶製品の独自販売の拡大 ・荒茶の品質アップや早期出荷による単価の向上並びにJA津野山・満天の星の買取量の増加による荒茶販売額の拡大 ・地域の茶園を守る仕組みづくりの検討 ・急傾地用の機械開発の検討、施肥の改善や改植、台切による茶園の若返り
四万十の栗再生プロジェクト	四万十の栗の供給量増加を目標に掲げ、剪定や新改植の講習会を開催するなどの取り組みを推進してきたが、生産者の高齢化や老木、近年の天候不良などの影響を受け、供給量は減少(H22:56t→H27:24t)。新たに整備した加工場における商品開発や販路開拓等によって四万十の栗の販路が広がり、需要に供給が追いつかない状態にあることから、生産体制を早急に整備することが必要	◎北幡地域(西土佐、十和・大正)のまとまりなど体制の整備により、栗の生産量を確保する。 ・北幡地域の各JA栗部会活動での「特選栗」認定制度の推進による収量向上と集荷量の増加 ・労働力の補完や新改植の実施・剪定新技術の普及 ・新たな加工施設の整備の検討
四万十町拠点ビジネス体制の強化	豊富な四万十町の産品を地域の雇用の創出や所得の向上につなげるためには、新たな産直販売の仕組みづくりとアンテナショップ機能の強化が必要	◎四万十町産品の地産外商の仕組みを強化する。 ・閉店した「四万十の蔵」に代わるアンテナショップ機能の再構築 ・道の駅「あぐり窪川」の充実に向けた販売機能・体制の強化 ・四万十町産品のブランド化に向けた戦略の構築
高幡地域における広域観光の推進	奥四万十博の開催を契機に、高幡地域の観光素材をビジネスにつなげ、5市町村への誘客を図っていくことが必要	◎奥四万十博の開催に向けた体験プログラム等の商品力の向上と、奥四万十博終了後も継続的に広域観光を推進していくための組織体制の強化を図る。 ・奥四万十博開催に向けた、奥四万十博推進協議会を中心とした旅行会社へのセールスや体験メニューの磨き上げ、新たな体験プログラムの造成 ・広域的な観光組織のあり方について、高幡広域一部事務組合を中心に議論を進めていく

・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施

(目標の設定がないものや客観的に評価できない定性的な目標については、「—」としている)

区分	評価基準	件数
A+	・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した(または達成する見込みがある)もの	21件
A	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの ・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%以上100%未満	10件
A-	・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%未満	17件
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの	20件
—	目標の設定がないものや、客観的に評価できない定性的な目標を設定したもの	6件
	計	74件

※1つのアクションプランで複数の数値目標等を設定したものもあるため、上記の件数とアクションプランの数とは一致しない